

株主・投資家の皆様へ

第19期

中間

株主通信

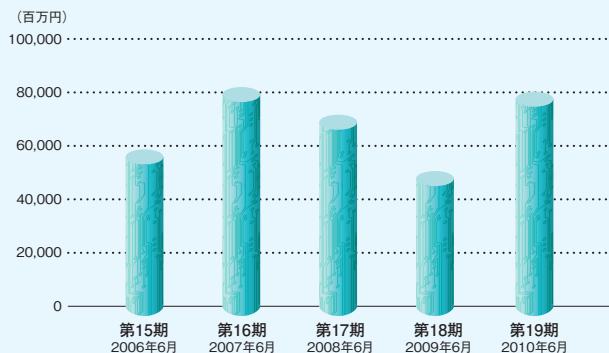
平成22年1月1日から平成22年6月30日まで

Siix
We care.

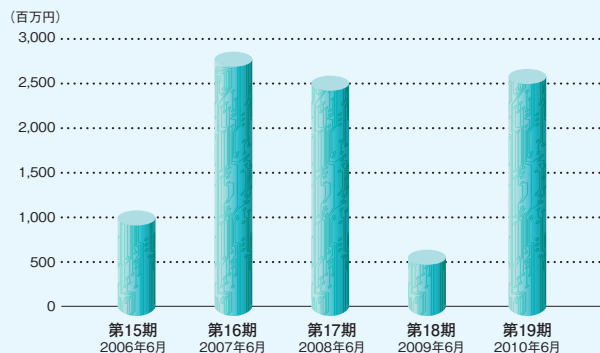
シークス株式会社

証券コード 7613

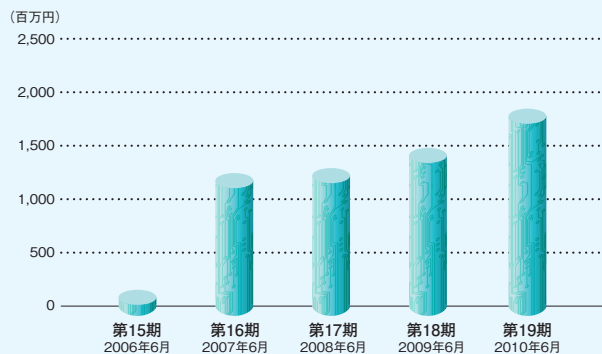
売上高



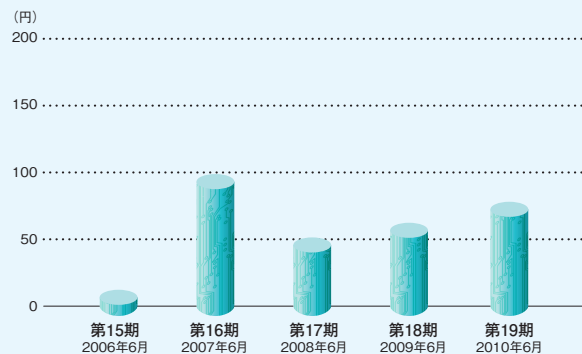
経常利益



中間純利益



1株当たり中間純利益



		第15期 2006年6月	第16期 2007年6月	第17期 2008年6月	第18期 2009年6月	第19期 2010年6月
売上高	(百万円)	58,688	81,846	71,573	50,572	80,268
経常利益	(百万円)	1,076	2,852	2,589	632	2,660
中間純利益	(百万円)	152	1,240	1,286	1,479	1,847
1株当たり中間純利益	(円)	12.08	98.46	51.05	62.23	78.29

(注) 2008年1月1日付にて、1株につき2株の割合で株式分割を行っております。



代表取締役会長兼CEO
村井史郎

株主の皆様には日頃から温かいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社第19期中間株主通信をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当中間期は、昨年からの各国における積極的な景気対策効果等により、アジアを中心に世界経済は回復基調で推移しました。景気の牽引役であった中国だけでなく、新興国においても個人消費が堅調に伸び、米国、日本においても緩やかに経済は回復してまいりました。しかしながら欧州については、財政危機への懸念から生じた先行きに対する不透明感は依然払拭できておりません。また成長性に翳りのある分野も一部では見え始めてきております。

このような経済環境下、当社のコア事業分野でありますエレクトロニクス分野におきましては、デジタル家電や車載関連分野を筆頭に、幅広い事業分野におきまして、業績が急回復し売上高と各利益全てにおきまして、前年同期実績を大きく超えることができました。

当下半期につきましては、米国や中国の景気減速感や更なる円高加速など懸念材料もごございますが、基本的には、引続きエレクトロニクス市場は概ね順調に推移するものと判断しております。このような中、当社といたしましては、既存分野については家電、車載機器、産業機器など柱となる事業で着実な拡大をはかるとともに、環境・省エネなどの新たな分野や、新たな地域への展開におきましても、積極的な取り組みを継続していく所存であります。株主の皆様には、どうか引続きご支援賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

平成22年9月

当中間期の経済環境を顧みますと、わが国経済は、昨年からの景気対策の効果によるアジアを中心とした海外経済の拡大を背景に輸出が好調を維持しました。これに加えて、住宅投資や設備投資等の民需についても回復が見られました。海外経済は、米国では、景気対策効果による個人消費の拡大が見られましたが、欧州では、雇用調整の遅れやユーロ圏の金融問題への対応遅れ等が障害となり低調に推移しました。一方、アジアでは、景気回復の牽引役である中国が、輸出・投資主導型から消費主導型の成長方式への政策転換により消費地としての拡大に向けて取り組み始めました。また、中国をはじめとした多くの新興国で、輸出・生産が堅調に推移したことにより世界経済における存

在感を大きく示しました。

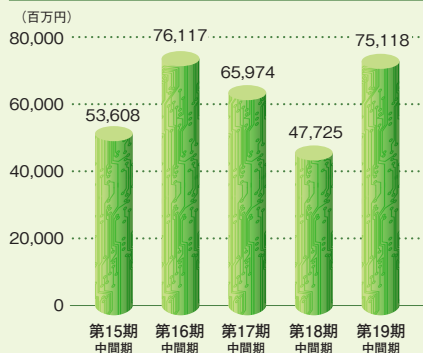
このような状況下、当社の当中間期の売上高は802億6千8百万円となり、前年同期に比べて296億9千6百万円の増加(58.7%増)となりました。これは主に、当社グループのコアとなる電子部門において、デジタル家電用基板実装品の出荷が引続き好調を維持したことや、車載関連機器用部材・基板実装品の出荷が回復したことによるものです。利益面では、売上高の増加にともない営業利益は24億8千8百万円となり、前年同期に比べて19億3千4百万円の増加(349.5%増)となりました。また、経常利益は26億6千万円となり、前年同期に比べて20億2千7百万円の増加(320.6%増)となりました。四半期純利益(累計)は18億

セグメント別の概況

電子部門

当社グループのコアになる分野であり、通信機器、車載関連機器、情報機器、家庭電気機器、産業機器、一般電子機器、デバイス等に係る完成品、組立品、基板実装品、部品単体・キット等を幅広く取扱っております。この部門では、主にデジタル家電用基板実装品の出荷が引続き好調を維持し、車載関連機器用部材・基板実装品の出荷も増加したことにより、当中間期の売上高は751億1千8百万円となり、前年同期に比べて273億9千2百万円の増加(57.4%増)となりました。営業利益は、売上高の増加にともない前年同期に比べて19億3千3百万円増加(157.8%増)し、31億5千9百万円となりました。

電子部門売上高の推移



機械部門

自動車用ワイヤーハーネス部材、設備機械等を取扱っております。当中間期の売上高は55億6千8百万円となり、前年同期に比べて28億5千3百万円の増加(105.1%増)となりました。営業利益は2千1百万円となり、前年同期に比べて3千7百万円の増加(前年同期は1千5百万円の営業損失)となりました。

4千7百万円となり、外国子会社配当金益金不算入制度導入による繰延税金負債取り崩しを行った前年同期に比べて3億6千8百万円の増加(24.9%増)となりました。



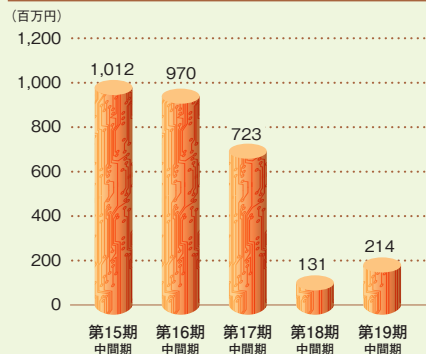
品 種 別 売 上 高

	第18期中間期		第19期中間期	
	金額(百万円)	構成比率(%)	金額(百万円)	構成比率(%)
家 電 機 器 (AV機器、エアコン等)	19,469	38.5	27,713	34.5
車 載 (車載電装品、カーオーディオ等)	8,431	16.7	16,136	20.1
情 報 機 器 (スキャナー、プリンター等)	7,605	15.1	11,790	14.7
産 業 機 器 (汎用エンジン用基板等)	8,762	17.3	11,701	14.6
通 信 機 器 (携帯電話用カメラモジュール等)	2,373	4.7	4,382	5.5
一 般 電 子 部 品	1,084	2.1	3,396	4.2
機 械 そ の 他	2,847	5.6	5,151	6.4
計	50,572	100.0	80,268	100.0

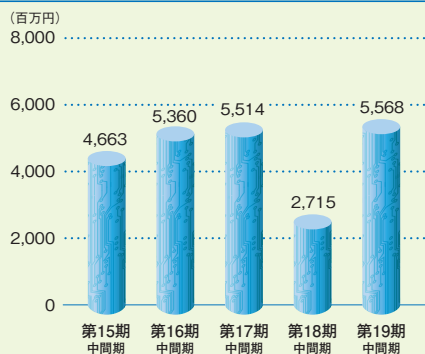
その他部門

印刷インキ、化成品、雑貨等を取扱っております。当中間期の売上高は2億1千4百万円となり、前年同期に比べて8千2百万円の増加(62.4%増)となりました。営業利益は、5百万円となり、前年同期に比べて1百万円の減少(20.0%減)となりました。

その他部門売上高の推移



機械部門売上高の推移



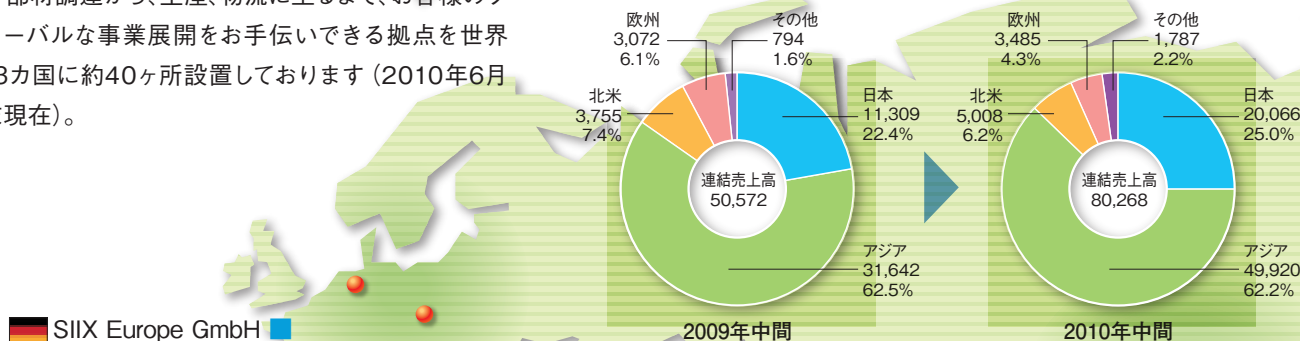
シークスネットワーク


幅広い海外拠点網の有機的なネットワークを通じて、お客様にさまざまなアウトソーシングの選択肢を提供できることがシークスの強みのひとつです。

部材調達から、生産、物流に至るまで、お客様のグローバルな事業展開をお手伝いできる拠点を世界13カ国に約40ヶ所設置しております（2010年6月末現在）。

海外売上高構成比

単位:百万円



-  SIIX Europe GmbH 
-  SIIX EMS Slovakia s.r.o. 

-  SIIX (Shanghai) Co., Ltd. 
-  SIIX H.K. Ltd. 
-  SIIX EMS (DONG GUAN) Co., Ltd. 
-  SIIX (Shanghai) Co., Ltd. Dalian Branch 
-  SIIX (Dongguan) Co., Ltd. 
-  SIIX TWN Co., Ltd. 
-  SIIX Singapore Pte. Ltd. 
-  PT SIIX Electronics Indonesia 
-  SIIX Bangkok Co., Ltd. 
-  SIIX EMS (THAILAND) CO., LTD. 
-  SIIX Phils., Inc. 
-  SIIX Logistics Phils, Inc. 

▶▶ PICK UP!

シークスエレクトロニクス株式会社

神奈川県相模原市緑区町屋一丁目3番25号

シークスグループで国内初のEMS工場です。国内完結型EMSビジネスへの新たな取り組みや、海外における量産のための試作・立ち上げ支援などを目的として2009年12月に設立されました。国内の営業部と連携し、お客様の幅広いニーズにお応えいたします。



■ シークスエレクトロニクス株式会社 ■

- SIIX U.S.A. Corp. ■
- SIIX U.S.A. Corp. Irvine Branch ■
- U.S.A. ZAMA, Inc. ■
- SIIX MEXICO, S.A DE C.V. ■
- SIIX do Brasil Ltda. ■

主な事業内容

電子部品等の輸出入販売・物流……………■ 各種基板実装および機器・部品の組立・加工……………■
 電子部品等の輸出入販売……………■ 小型エンジン用部品の輸出入販売……………■

支社・駐在員事務所……………■

連結財務諸表

連結貸借対照表

単位:百万円

科目	当中間期 (2010年6月30日現在)	前期 (2009年12月31日現在)	科目	当中間期 (2010年6月30日現在)	前期 (2009年12月31日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	44,695	41,917	流動負債	35,254	32,980
現金及び預金	6,005	9,492	買掛金	23,687	20,605
受取手形及び売掛金	26,470	22,214	短期借入金	8,272	9,449
商品及び製品	8,848	6,703	未払法人税等	563	533
仕掛品	399	557	その他	2,731	2,392
原材料及び貯蔵品	1,755	1,712	固定負債	4,956	4,865
その他	1,298	1,306	長期借入金	3,477	3,460
貸倒引当金	△ 82	△ 69	退職給付引当金	65	67
固定資産	14,582	13,581	その他	1,412	1,338
有形固定資産	9,299	9,410	負債合計	40,210	37,846
建物及び構築物	4,096	4,195	純資産の部		
機械装置及び運搬具	2,677	2,586	株主資本	21,473	19,815
土地	2,227	2,256	資本金	2,144	2,144
その他	297	371	資本剰余金	1,853	1,853
無形固定資産	909	845	利益剰余金	18,154	16,495
投資その他の資産	4,373	3,325	自己株式	△ 677	△ 677
投資有価証券	2,142	1,695	評価・換算差額等	△ 2,815	△ 2,629
出資金	518	684	その他有価証券評価差額金	581	278
その他	2,116	1,352	繰延ヘッジ損益	19	3
貸倒引当金	△ 403	△ 407	為替換算調整勘定	△ 3,417	△ 2,911
資産合計	59,278	55,498	少数株主持分	409	466
			純資産合計	19,067	17,652
			負債・純資産合計	59,278	55,498

※連結貸借対照表・連結損益計算書・連結キャッシュ・フロー計算書の記載金額は、それぞれ表示単位未満切捨てにより表示しております。

連結損益計算書

単位:百万円

科目	当中間期 (2010年1月1日から 2010年6月30日まで)	前中間期 (2009年1月1日から 2009年6月30日まで)	前期 (2009年1月1日から 2009年12月31日まで)
売上高	80,268	50,572	125,485
売上原価	74,840	47,238	117,135
売上総利益	5,428	3,334	8,349
販売費及び一般管理費	2,940	2,780	5,669
営業利益	2,488	553	2,680
営業外収益	271	213	395
営業外費用	99	134	278
経常利益	2,660	632	2,797
特別利益	5	2	29
特別損失	0	107	153
税金等調整前四半期(当期)純利益	2,665	526	2,673
法人税、住民税及び事業税	751	729	1,304
法人税等調整額	26	△ 1,722	△ 1,583
少数株主利益	40	40	84
四半期(当期)純利益	1,847	1,479	2,868

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

科目	当中間期 (2010年1月1日から 2010年6月30日まで)	前中間期 (2009年1月1日から 2009年6月30日まで)	前期 (2009年1月1日から 2009年12月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 580	3,014	6,197
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,689	△ 354	△ 877
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,173	△ 639	△ 1,717
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 42	360	127
現金及び現金同等物の増減額	△ 3,485	2,380	3,729
現金及び現金同等物の期首残高	9,474	5,744	5,744
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	5,988	8,125	9,474

PICK UP!

キャッシュ・フローの状況

営業活動の結果、減少した現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、5億8千万円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益が26億6千5百万円となり、仕入債務の増加額43億1千3百万円の増加要因がありました。売上債権の増加額54億5千2百万円、たな卸資産の増加額24億4百万円の減少要因によるものです。

投資活動の結果、減少した資金は、16億8千9百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出8億8千2百万円、無形固定資産の取得による支出9千7百万円、および非連結子会社に対する貸付による支出7億7千万円によるものです。

財務活動の結果、減少した資金は、11億7千3百万円となりました。これは主に、長期借入れによる収入6億円に対し、短期借入金の純減少額9億6千万円、長期借入金の返済による支出4億7千7百万円、および配当金の支払額1億8千8百万円によるものです。

これらの結果、当中間期末における連結ベースの資金は、59億8千8百万円となり、前連結会計年度末と比べ34億8千5百万円の減少（36.8%減）となりました。

1月 フィリピンの合弁会社が フィリピン証券取引所に上場

当社のフィリピンの合弁会社である Integrated Microelectronics, Inc. が2010年1月21日付でフィリピン証券取引所に上場いたしました。

3月 シークスエレクトロニクス(株) 営業開始

シークスグループ初の国内EMS工場、シークスエレクトロニクス株式会社(神奈川県相模原市)が営業を開始いたしました。

3月 東証IRフェスタに出展

東京ドームシティプリズムホールにて開催されました「東証IRフェスタ2010」に出展いたしました。多くの熱心な個人投資家の方々にご来場いただき、当社の事業内容や技術を広くPRすることができました。

5月 ホームページリニューアル

当社のホームページを全面リニューアルいたしました。当社の事業内容や概況をよりわかりやすくご覧いただけるようになりました。



<http://www.siix.co.jp/>

5月 (株)タキオンへ出資

LED照明の寿命を2倍に、使用電力を半減させることができる新型電源ICを開発した株式会社タキオンに出資いたしました。当社は、同社の販売総代理店として、電源ICや、それにLEDチップを組み合わせた電源モジュール等を販売いたします。

会社概要

商号 シークス株式会社
設立 1992年7月1日
資本金 2,144百万円
従業員数 個別 134名
 連結 7,482名
本社 大阪市中央区備後町一丁目4番9号
東京営業部 東京都千代田区九段南二丁目3番25号
EMS技術統括部 神奈川県相模原市緑区町屋一丁目3番25号
URL <http://www.siix.co.jp/>

取締役、監査役および執行役員

代表取締役会長 執行役員	村井 史郎	CEO(最高経営責任者)
代表取締役社長 執行役員	村瀬 漢章	COO(最高執行責任者)
取締役 執行役員	大庭 勝躬	営業担当兼大阪第一営業部長兼 北米地域、フィリピン、南米地域、韓国担当
取締役 執行役員	近藤 恒雄	経営企画部長兼秘書室長兼総務部担当
常勤監査役	戸上 幸一郎	
監査役	岩下 久二男	
監査役	松井 善弘	サカタインクス株式会社 常勤監査役
執行役員	池田 喜和	タイ地域担当兼 SIIX EMS (THAILAND) CO., LTD. チェアマン
執行役員	松谷 伸規	香港・中国華南地域担当兼 SIIX EMS (DONG GUAN) Co., Ltd. 董事長
執行役員	水谷 嘉弘	東京営業部長兼台湾担当
執行役員	岡田 雅夫	新規事業開発担当兼 シンガポール・インドネシア地域担当
執行役員	岩武 孝明	欧州地域担当兼SIIX Europe GmbHマネージングディレクター 兼SIIX EMS Slovakia s.r.o. マネージングディレクター
執行役員	松嶋 義彦	EMS技術統括部長
執行役員	中尾 泉	大阪第二営業部長兼 中国華東・華北地域担当
執行役員	大野 精二	経理部長
執行役員	長谷川 健二	情報システム部長
執行役員	高羽 斎志	シークスエレクトロニクス株式会社 代表取締役社長
執行役員	東尾 茂郷	資材統括部長

*監査役のうち、岩下久二男氏、松井善弘氏は社外監査役です。

株式の状況

発行可能株式総数.....80,000,000株
 発行済株式の総数.....25,200,000株
 当中間期末株主数.....4,634名

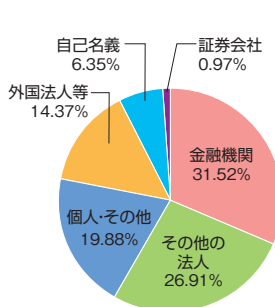
大株主

株主名	株式数(株)	持株比率(%)
サカタインクス株式会社	5,906,000	23.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,541,000	10.08
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,357,000	5.38
村井 史郎	1,200,000	4.76
株式会社りそな銀行	1,077,400	4.28
株式会社三井住友銀行	997,400	3.96
有限会社フォーティ・シックス	600,000	2.38
MELLON BANK TREATY CLIENTS OMNIBUS	402,700	1.60
株式会社三菱東京UFJ銀行	360,000	1.43
MELLON BANK, N.A. AS AGENT FOR ITS CLIENT MELLON OMNIBUS US PENSION	330,200	1.31

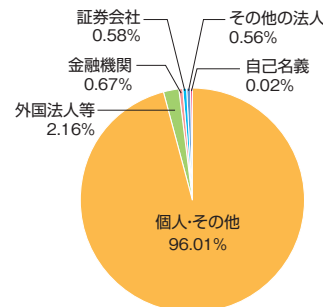
*当社の当該大株主への出資はありません。

*上記のほか当社所有の自己株式1,600,364株(6.35%)があります。

〔所有者別所有株式数〕



〔所有者別株主数〕



株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月

基準日 定時株主総会 毎年12月31日
期末配当金 毎年12月31日
中間配当金 毎年6月30日
そのほか必要のあるときは、
あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒183-8701

東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-176-417

(インターネット
ホームページURL) [http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/
retail/service/daiko/index.html](http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html)

公告方法 当社のホームページに掲載します。
<http://www.siix.co.jp/jp/ir/koukoku.html>

単元株式数 100株

上場取引所 東京証券取引所市場第一部
大阪証券取引所市場第一部

証券コード 7613

[株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について]

証券会社に口座を開設されている株主様

口座のある証券会社宛にご照会お願いいたします。

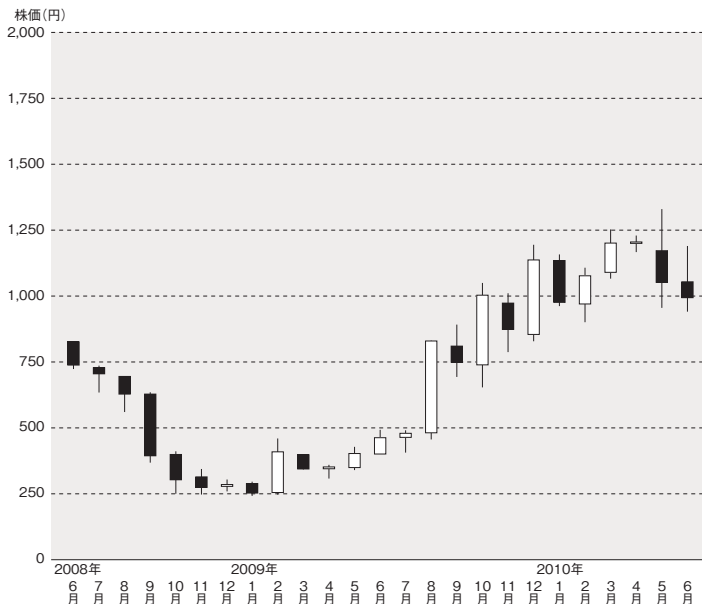
証券会社に口座を開設されていない株主様

株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に
口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。
上記の電話照会先にご照会お願いいたします。

IRメール配信のご案内

当社では投資家の皆様に対してe-MailによるIR情報配信サービスを行っております。ご登録いただいた方々に当社のWebサイト(<http://www.siix.co.jp/>)に新たな情報が掲載されたことをお知らせします。ご希望の方は、ディア・ネットサービスホームページ(<https://www.dinet.jp/7613>)から、簡単にご登録(無料)いただけます。

株価推移 (2008年6月～2010年6月)



シークス株式会社

本社 ● 〒541-0051 大阪市中央区備後町1-4-9 URL ● <http://www.siix.co.jp/>
電話 ● 06-6266-6400 FAX ● 06-6266-6428 証券コード ● 7613



この冊子は再生紙を使用し、
印刷インキには植物油インキ
を使用しております。